

第一次世界大戦と世界の変容

勢力圏の拡大を競う列強間の対立は、第一次世界大戦をもたらした。この史上初の総力戦の結果、国際秩序と各国の政治・社会は大きな変容をとげた。

Q▶ 第一次世界大戦は、世界にどのような変容をもたらしたのだろうか。

第一次世界大戦とロシア革命

Q▶ 第一次世界大戦とロシア革命は、どのように展開したのだろうか。

バルカン半島の危機

Q▶ バルカン半島で緊張が高まった背景は、どのようなものだったのだろうか。

三国協商

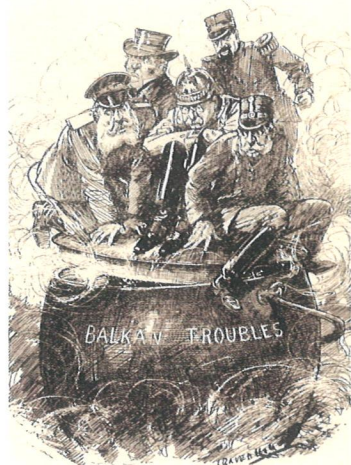
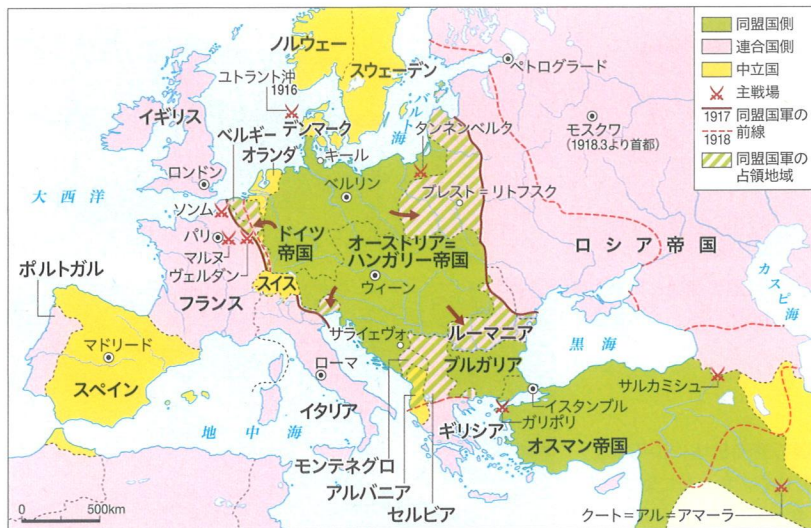
- ①ベルリン会議で自治を認められていたブルガリアは、この時に独立を宣言し、翌1909年国際的に独立を承認された。
- ②スラヴ人の連帯と統一をめざす思想・運動。バルカン方面への進出をはかるロシアが運動を主導していた。

20世紀初めのヨーロッパの列強体制は、ドイツの強大化を警戒するイギリス・フランス・ロシアと、ドイツ・オーストリアという2つの陣営の対立に向かっていた。対立の焦点は、バルカン半島であった。とくにオーストリアは、スラヴ系国家であるセルビアが台頭して、自国内やバルカン半島のスラヴ人地域に影響力を増すことを危惧していた。1908年に青年トルコ革命がおこってオスマン帝国が混乱すると、オーストリアはベルリン会議で行政権を得ていたボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合したが、セルビアはこれに反発した。

バルカン半島の緊張の背景には、ドイツ・オーストリアのパン＝ゲルマン主義と、ロシア・セルビアのパン＝スラヴ主義との対立もあった。ロシアは日露戦争の敗北後、外交の主轴を極東からバルカン半島に移していた。1912年、ロシアの後援で、セルビア・ブルガリア・モンテネグロ・ギリシアがバルカン同盟を結成した。同盟は、イタリア＝トルコ戦争に乗じてオスマン帝国に宣戦し、翌年に勝利した(第1次バルカン戦争)。しかし、獲得した領土の分配をめくり、まもなくブルガリアとほかのバルカン同盟諸国などのあいだで戦争がおこった(第2次バルカン戦争)。これに敗北したブルガリアは、ドイツ側陣営に接近した。



第2次バルカン戦争終結後のバルカン諸国



THE BOILING POINT.

第一次世界大戦中のヨーロッパ

こうして列強の陣営間対立と、新興諸国間の競合が複雑にからみあい、緊張が高まったバルカン半島は、「**ヨーロッパの火薬庫**」と呼ばれた。

第一次世界大戦の勃発

▶ 歴史上はじめての世界大戦は、どのように始まったのだろうか。

1914年、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの中心都市サラエヴォで、オーストリアの帝位継承者夫妻がセルビア人により暗殺された(**サラエヴォ事件**)。ドイツの支持を受けたオーストリアは、セルビアにきびしい最後通牒を渡し、7月末に宣戦した。同じ正教国としてセルビアを後援するロシアが総動員令を発すると、ドイツはロシアに宣戦した。フランスとイギリスもロシア側で参戦し、こうして**第一次世界大戦**が始まった。

開戦直後、ドイツ軍はベルギーの中立を無視して侵入し、さらにフランスに侵攻してパリにせまったが、マルヌの戦いでフランス・イギリス両軍により阻止された。これ以降、西部戦線は塹壕戦による膠着状態におちいった。東部戦線では、ドイツ軍が緒戦の**タンネンベルクの戦い**でロシア軍を撃破した。

イギリス・フランス・ロシア側は協商国(連合国)、ドイツ・オーストリア側は同盟国と呼ばれた。日本は開戦後まもなく協商国側に加わり、ついでオスマン帝国とブルガリアが同盟国側で参戦した。イタリアは三国同盟にもかかわらず当初は中立で、1915年には**ロンドン条約**を秘密裏に締結して協商国側で参戦した。

「ヨーロッパの火薬庫」今にも吹きこぼれそうな、「バルカン問題」と書かれている大金をおさえる列強(前列左からロシア・ドイツ・オーストリア、後列左からイギリス・イタリア)。1912年の風刺画。

③ 協商国はこの秘密条約で、大戦への参戦と引きかえに、イタリアへ「未回収のイタリア(→p.230)」やフィウメの獲得を約束した。

④ ヨーロッパで中立を終戦まで維持した国は、北欧諸国やスイスなど、わずかであった。

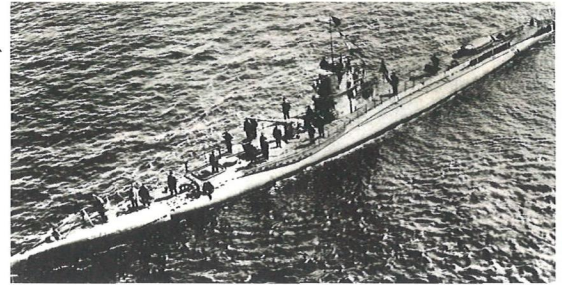


塹壕戦 第一次世界大戦では機関銃が本格的に使用されはじめ、地中に溝を掘って塹壕をつくり、突撃と退却を繰り返す戦法が主流となった。



新兵器の戦車(左上)と飛行機(右上) 新兵器の開発と大量生産能力は、それぞれの国の工業力にもついていた。その意味で、大戦は経済戦争でもあった。

潜水艦 ドイツは、潜水艦を連合国の通商破壊に使用した。1915年イギリス客船ルシタニア号がドイツ潜水艦に撃沈され、アメリカ人乗客100人以上が犠牲になった事件は、ドイツとアメリカの関係を悪化させた。



戦時外交と総力戦

Q 戦時外交はどのような特徴をもっていたのだろうか。また、総力戦とはどのような戦争だったのだろうか。

① 協商国がイタリアと結んだロンドン条約や、イギリス・フランス・ロシア間でオスマン帝国領の分割を取り決めたサイクス・ピコ協定などが代表的な例である。

第一次世界大戦中、列強は、秘密条約にもとづく戦時外交を繰り広げた。現地住民の意思を無視して領土の分割を取り決め①、また、自治や独立を約束して植民地や民族独立運動から支援を得ようとした。とくにイギリスは、アラブ人とユダヤ人の双方に、協力の代償としてオスマン帝国領内での国家建設を約束して、パレスチナ問題の原因をつくった。

→p.299

開戦時には、多くの人々が、従来の戦争と同様に第一次世界大戦も短期で決着がつくと考えていたが、実際には予期せぬ長期戦となった。また、大戦は前線での戦闘のみによって勝敗が決するのではなく、一般社会(銃後)も戦争遂行に動員される史上初の総力戦となった。総力戦体制のもとで、各国政府は企業の生産活動を管理し、配給制を導入するなど、国民生活を統制したが、この経験はのちに社会主義をはじめとする計画経済の源流となった。各国が、第2次産業革命以来発展させていた工業力を最大限に発揮したことも、大戦の長期戦化・総力戦化の背景にあった。さらに大戦では、機関銃のほか、戦車・飛行機・毒ガスといった新兵器が本格的に投入された。

→p.258

国民国家の形成が進んでいた国々で、政府や諸政党がたがいに協力する挙国一致体制がつくられたことも、総力戦体制を支えた②。各国の社会主義政党も自国の政府を支持し、第2インターナショナルは崩壊した。

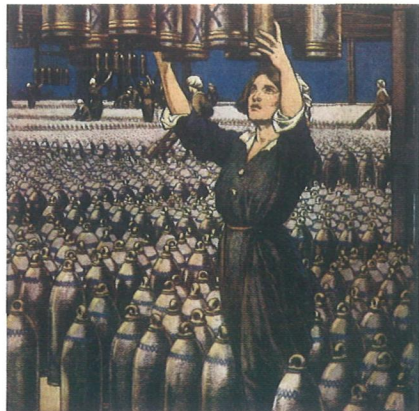
→p.264

➤ イギリスのロイド＝ジョージ内閣やフランスのクレマンソー内閣がある。

・ 第一次世界大戦中には滞在先のスイスで反戦・平和を訴えたフランスの作家・思想家のロマン＝ロランのような人物もいた。

② 1917年にイギリス王家は、それまでのドイツ系の名称から、王宮所在地の名称をとってウィンザー家に改称した(ウィンザー朝)。このこともイギリスにおける挙国一致体制の形成に貢献した。

前線のインド兵を激励するロイド＝ジョージ英首相(中央) 戦争が終わると、イギリス政府の植民地に対する態度は再び冷淡なものとなった。



また、多民族国家として国内の統合力が弱かったオーストリアやロシアは、総力戦には不利であった③。

総力戦では、植民地の現地人も、兵士や労働者として動員された。女性もまた、出征した男性にかわって様々な職場に進出した。女性の社会進出が促された

軍需工場^{ぐんじョウ}で働く女性 戦争が長期化すると、各国の軍需工場では非熟練労働者や女性労働者による武器の大量生産がおこなわれた。図はイギリスの軍需工場。

③ 1916年夏にロシアでは、動員に抵抗する中央アジア諸民族^{ちゆうしやうき}の蜂起がおこった。

④ これによりドイツは、アメリカなど中立国の船舶も攻撃対象に含めた。

ドイツ革命 1918年11月9日、革命派の兵士を乗せて、首都ベルリンのブランデンブルク門を通過するトラック。

大戦の結果

Q 大戦はどのように終わり、どのような結果をもたらしたのだろうか。

アメリカ合衆国^{ふがうさ}は当初、第一次世界大戦に中立であったが、イギリスの海上封鎖^{ふうさ}に対してドイツが無制限潜水艦作戦^{せんすいかん}④の実施に踏みきると、自国民の保護のために1917年4月に協商国側で参戦した。また、戦時外交に批判的なアメリカ合衆国のウィルソン大統領は、1918年初めに民主的講和の必要を国際世論^{こくさいせろん}に呼びかけた(「十四カ条」)。

1917年のロシア革命で成立したソヴィエト政権は、18年3月、広大な領土^{りょうど}の放棄と多額の賠償金^{ばいしょうきん}を条件に、同盟国とブレスト＝リトフスク条約^{ぷれすと＝りとうふくくじョウ}を結んで講和した。これにより同盟国は東部戦線の兵力の多くを西部

戦線に振り向けたが、アメリカ合衆国が加わった協商国側の優位を崩せなかった。秋には同盟国側の国々はつぎつぎと降伏し、オーストリアは各民族の国家へと解体した。11月、ドイツではキール軍港の水兵反乱^{きーるすいへいはんらん}をきっかけにドイツ革命がおこって全国に広がり、帝政は倒れてヴィルヘルム2世^{ひるめい}は亡命した。成立した臨時政府は降伏し、こうして人類初の総力戦は終わった。

開戦前、ヨーロッパは自他ともに文明の頂点と



① シュペングラー『西洋の没落』(第1巻は1918年、第2巻は22年の刊行)が世界的ベストセラーとなったことも、ヨーロッパの地位の低下を背景としていた。ただし、同書はヨーロッパ文明が成熟に達したと論じており、その没落をととなえていたのではない。

して認識されていたが、大戦によりヨーロッパ人同士が凄惨な戦いを繰り広げたことで、その認識は大きく後退した。また、主戦場となったヨーロッパは、戦勝国と敗戦国の区別なく疲弊した。こうして、国際秩序におけるヨーロッパ中心主義は過去のものとなり、かわりにアメリカ合衆国や日本、社会主義政権のロシア(ソ連)が新たに台頭した①。戦争に動員された植民地の人々は、権利意識を高め、独立運動を活発化させた。総力戦遂行の一翼を担った女性も、戦時中から戦後にかけて一連の国々で女性参政権を勝ち取った。ただし男性が復員すると、多くの女性は家庭に戻ることを強いられた。

ロシア革命

Q ロシア革命はどのようにおこり、どのような歴史的意義をもったのだろうか。

② 開戦後、ドイツ風のベテルブルクからロシア風のペトログラードに改称された。

③ 当時のロシアでは、西欧の暦(グレゴリウス暦)より13日遅れたユリウス暦を使っていた。そのため、ロシアでは二月革命と呼ばれる。

④ 労働者や兵士の支持を得たソヴィエトが臨時政府とあい並ぶこの状態は、二重権力と呼ばれた。

演説するレーニン その右下はトロツキー。1920年、モスクワ。



第一次世界大戦中の1917年3月、前線での敗退と食料危機を背景に、首都ペトログラードで労働者と兵士が反乱をおこすと、ニコライ2世は退位し、帝政は倒れた(二月<三月>革命)。自由主義者が主導する臨時政府は、言論の自由などの改革を実行する一方、戦争を継続した。これに対して、社会主義政党的のメンシェヴィキやエスエルを中心に、労働者や兵士からなるソヴィエト(評議会)が各地に組織され、民主的な条件で講和を実現するよう臨時政府に圧力をかけた④。

4月、ボリシェヴィキの指導者レーニンが亡命先のスイスから帰国して四月テーゼを発表し、戦争の即時終結や臨時政府の打倒、社会主義政権の樹立をとなえると、労働者のあいだで支持を広めた。労働者は臨時政府を無視して工場を管理下におき、農民も土地の分配を求めて蜂起した。

また、ウクライナ人などの諸民族も自立の動きを強めた。混乱の深まりを恐れるメンシェヴィキとエスエルは自由主義者と連立政権をつくり、エスエルのケレンスキーが臨時政府の首相となった。しかし、各地のソヴィエトではボリシェヴィキの支持者が増加した。

11月、レーニンとトロツキーに指導されたボリシェヴィキは、ペトログラードで武装蜂起をおこし、臨時政府を倒して史上初の社会主義政権を樹立した(十月<十一月>革命)。このソヴィエト政権は、「平和に関する布告」により、無併合・無償金・民族自決の原則で即時に講和交渉を始めるよう交戦国に呼びかけた。また、

「土地に関する布告」により、土地の私的所有を廃止した。しかし、講和の呼びかけには同盟国しか応じず、ウィルソンは「十四カ条」によって布告に対抗した。

→p.281、284

1917年末に実施された憲法制定会議の選挙で、農民が伝統的に支持するエスエルが第一党になると、レーニンは翌18年1月に同会議を解散した。3月、ソヴィエト政権はブレスト＝リトフスク条約を結び、モスク

→p.281

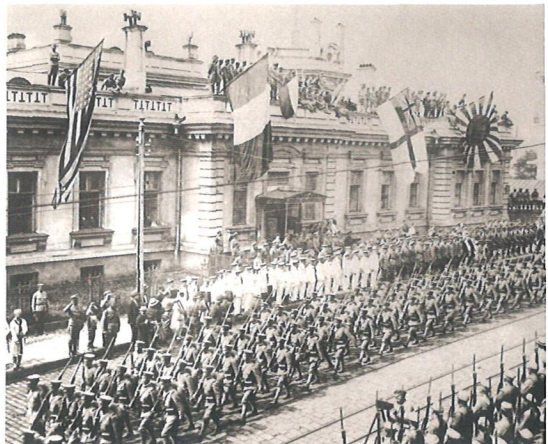
ワに首都を移して社会主義政策を断行した。しかし、旧ロシア軍の軍人や農民など諸勢力との内戦が始まり、革命の波及を恐れる協商国も、チェコスロヴァキア軍団⑥の救出を名目に軍隊を派遣して反ソヴィエト勢力を支援すると(対ソ干渉戦争)、ソヴィエト政権は赤軍を創設して対抗した。

1918～22

内戦中、レーニンは共産党(1918年にボリシェヴィキから改称)による一党独裁を確立した。経済面では計画経済を導入し、工業・銀行・貿易の国家管理を実現した(戦時共産主義)⑥。1919年には、社会主義革命を

世界に広げる目的で、コミンテルン(共産主義インターナショナル、第3インターナショナル)を創設した。実際には、社会主義革命が波及することはなかったが、ロシアで社会主義政権が成立したことは、世界中で労働運動や反植民地運動を活性化させ、支配層に危機感をいだかせた。

21年初めまでに赤軍は内戦を勝ちぬき、ソヴィエト政権は旧ロシア帝国領の大半に支配を広げた。しかし、戦時共産主義に対する農民・労働者の抗議行動が広がったため、レーニンは新経済政策(ネップ)を宣言して市場経済の導入に踏みきった。



対ソ干渉戦争(シベリア出兵)写真は、ウラジヴォストーク市内を行進する日本軍と、それを出迎える連合国軍。

⑥同軍団は、ロシアに投降したオーストリア軍のチェコ人・スロヴァキア人からなり、協商国側で戦うためにウラジヴォストークに移動中であった。

⑥また、ソヴィエト政権はチエカ(非常委員会)という秘密警察を設置し、住民をきびしい監視下においた。さらに農村からは武力によって食料を徴発した。

Q▶ 布告では、どのような講和が主張されているだろうか。また、この布告の内容は、どのような影響を与えたのだろうか。

「平和に関する布告」(1917年11月)

すべての交戦諸民族とその政府に対して、公正で民主的な講和についての交渉を即時に開始することを提議する。……政府がこのような講和とみなしているのは、無併合、無賠償の即時の講和である。……

政府が併合または他国の土地の略奪と理解しているのは、……弱小民族が同意または希望を正確に、明白に、自由意志で表明していないのに、強大な国家が弱小民族を統合することである。その際、その強制的な統合がいつおこなわれたか、また、強制的に統合される、あるいは

は強国の領域内に強制的にひきとめられる民族がどれだけ発展しているか遅れているかにはかわりない。さらに、その民族がヨーロッパに住んでいるか、遠い海外諸国に住んでいるかにもかかわりない。……

政府は秘密外交を廃止し、自ら全ての交渉を全人民の前で、完全に公然とおこなう確固たる意向を表明し、1917年2月から10月25日までに地主と資本家の政府によって確認または締結された秘密条約の、完全な公開にたちだちに着手する。

(歴史学研究会編『世界史史料10』)

パリ講和会議 調印はヴェルサイユ宮殿「鏡の間」(→p.193)でおこなわれた。手前の椅子に座るドイツ代表が署名しているところで、向こう側前列左から5人目がウィルソン米大統領。6人目がクレマンソー仏首相、7人目がロイド＝ジョージ英首相。



ヴェルサイユ体制下の欧米諸国

2

Q ▶ 第一次世界大戦後に成立した国際秩序はどのようなものだったのだろうか。また、欧米各国ではどのような変化がおこったのだろうか。

ヴェルサイユ体制とワシントン体制

Q ▶ 第一次世界大戦後の新たな国際秩序は、何にもとついて、どのように形成されたのだろうか。

5

1919年1月、パリに連合国代表が集まり、第一次世界大戦の講和会議が開催された。アメリカ合衆国のウィルソン大統領は「十四カ条」を掲げ、公正な講和の実現や植民地統治における現地人の意思の尊重などを主張したが、イギリスやフランスの抵抗により一部しか実現しなかった。イギリス・フランス両国は植民地支配の維持を望み、ドイツにもきびしい条件を提示した。同年6月に連合国がドイツと調印したヴェルサイユ条約^①では、巨額の賠償金^②の支払い、全植民地の放棄、大幅な軍備制限、徴兵制の廃止がドイツに課された。さらに、アルザス・ロレーヌはフランスに割譲され、ラインラントが非武装化された。

10

①連合国は、オーストリアとサン＝ジェルマン条約(1919年9月)、ブルガリアとヌイイ条約(1919年11月)、ハンガリーとトリアノン条約(20年6月)、オスマン帝国とセーヴル条約(20年8月)を、それぞれパリ近郊で調印した。

②1921年に、当時のドイツにおける国民総生産(GNP)の20年分に相当する1320億金マルクに決定された。

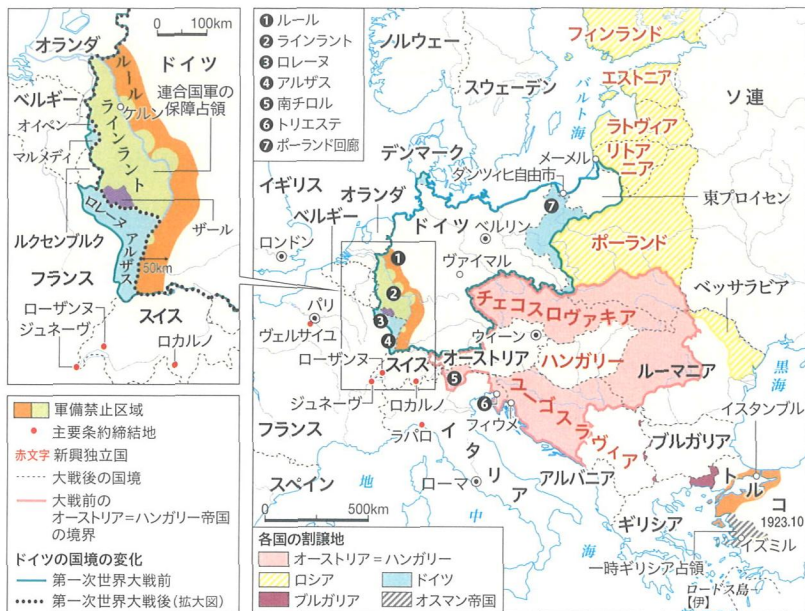
Q ▶ 「十四カ条」は、現実にはどのようなかたちで実現されたのだろうか。

パリ講和会議では、ロシア帝国とオーストリア＝ハンガリー帝国の解体によって、ポーランド・フィンランド・エストニア・ラトヴィア・リトアニア・チェコスロヴァキアの独立が承認された。敗戦国となったハ

15

ウィルソンの「十四カ条」(概要)

1. 秘密外交の廃止
2. 海洋の自由
3. 関税障壁の廃止
4. 軍備の縮小
5. 植民地問題の公正な解決
6. ロシアの完全独立とロシアからの撤兵
7. ベルギーの主権回復
8. アルザス・ロレーヌのフランスへの返還
9. イタリア国境の再調整
10. オーストリア＝ハンガリー帝国における民族自治
11. バルカン諸国の独立
12. オスマン帝国支配下の諸民族の自治
13. ポーランドの独立
14. 国際平和機構の設立



第一次世界大戦後のヨーロッパ
オイペン・マルメディは1920年の住民投票でベルギー領になり、ザールは15年間、国際連盟の管理下におかれることになった。

ンガリーも独立し、オーストリアはドイツ人地域のみ的小国となった。

また、バルカン半島ではセルブ=クロアート=スロヴェーン王国(のちユーゴスラヴィア)が成立した。これらの国々の成立は、「十四カ条」をき

っかけに広まった民族自決の理念にもとづいていた。しかし、諸民族が複雑に混住する東欧・バルカンの国々は、領土紛争や少数民族問題を抱えることとなった。

一方、民族自決の理念はアジア・アフリカ地域には適用されず、ドイツの植民地や旧オスマン帝国の領土の大半も、委任統治という名目で戦勝国に配分され、植民地主義が維持された。アラビア半島ではイブン=

サウードが王国を建てたものの、旧オスマン帝国領のシリアはフランスの、イラク・トランスヨルダン・パレスチナはイギリスの委任統治下に入った。また、旧ドイツ植民地の南太平洋の島々のうち、赤道以北のものは日本の委任統治領となり、中国のドイツ租借地に対する權益も日本が継承した。

アジア・アフリカの人々はこうした結果に失望し、朝鮮の三・一独立運動や中国の五・四運動など、各地で抗議運動をおこした。植民地主義に対する抗議運動が世界規模で連動しつつあったことが、この時期の新たな特徴である。

また、「十四カ条」やヴェルサイユ条約にもとづいて、史上初の国際平和機構である国際連盟が1920年に創設された。連盟はスイスのジュネー

ヴに本部をおき、総会・理事会・連盟事務局を中心に運営され、国際労働機関と常設国際司法裁判所が付置された。イギリス・フランス・イタリア・日本が連盟の常任理事国となったが、アメリカ合衆国は、戦後に国内で孤立主義^{こりつ}が強まったため参加しなかった。ドイツをはじめとする敗戦国やソヴィエト＝ロシアの参加が認められなかったことも、連盟の影響力を低めた。さらに、連盟は侵略国家に対して経済制裁^{せいざい}をおこなうことができた一方、軍事制裁の手段はもたず、議決方法に総会での全会一致を採用したことも、その紛争解決能力をそこねた。ただし、中小国間の紛争調停や難民支援などでは成果をあげた。パリ講和会議を通して成立したヨーロッパの新国際秩序は、ヴェルサイユ体制と呼ばれる。

アジア・太平洋地域でも戦後秩序を確立するため、1921～22年にアメリカ合衆国の主導で、イギリス・日本・中国など9カ国が参加するワシントン会議が開かれた。会議では主要国の主力艦^{しゅりよくかん}の保有トン数と保有比率を定めた海軍軍備制限条約が締結され、アメリカと日本の台頭を反映して、主力艦の保有比率はイギリス・アメリカ・日本のあいだで5・5・3とされた①。会議はさらに九カ国条約^{しゅけんせんちよう}を締結し、中国の主権尊重と門戸開放の原則を確認した。また、太平洋諸島の現状維持を定めた四カ国条約も結ばれ、これにともない日英同盟は解消された。ワシントン会議で成立した秩序は、ワシントン体制と呼ばれる。ヴェルサイユ・ワシントン両体制が、1920年代の国際秩序の柱となった。

①フランスとイタリアはいずれも1.67とされた。

西欧諸国の模索

Q> 西欧諸国は、第一次世界大戦の影響をどのように受け止めたのだろうか。

イギリスとフランスは大戦後、委任統治領を組み入れて海外領土を増やしたが、大戦で受けた経済的打撃によって不況に苦しんだ。

イギリスでは、総力戦の負担^{にな}を担った広範な国民、とくに女性に対して、政治参加の平等を実現すべきという認識が大戦中から広まっていた。大戦末期の1918年、第4回選挙法改正により、男性普通選挙が導入され、女性参政権も認められた②。戦後の選挙では労働党が躍進し、24年には同党党首マクドナルド^{MacDonald}を首班とする、自由党との連立内閣が実現した。

②男性は21歳以上、女性は30歳以上が参政権を得た。1928年の第5回選挙法改正で、両性とも21歳以上に拡大された。

カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなどの自治領も、大戦に参加したことで発言力を高めた。1931年のウェストミンスター憲章^{けんしやう}によ

って自治領は本国と対等の地位を認められ、イギリス帝国はイギリス連邦(Commonwealth)に再編された。他方で、長く差別的な待遇

を受けてきたアイルランドでは、1916年の蜂起後に独立運動が高揚し、独立戦争を経て、22年にアイルランド自由国が成立した。これ

は独立国ではなく自治領であり、北部のアルスター地方も含まれていなかったため、独立を求める動きはやまなかった。37年、アイルランドは独自の憲法を定めてエールを国名とし、事実上、連邦から離脱した。

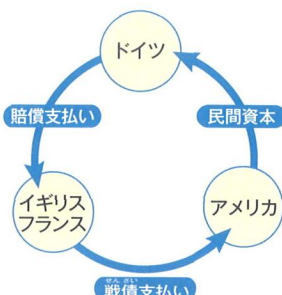
大戦の主戦場となったフランスでは、対独報復を求める世論が強く、ドイツの復活への恐れも大きかった。ドイツの賠償金支払いがとどこおったことを理由に、1923年にフランスはベルギーを誘ってドイツのルール工業地帯を占領したため、ヨーロッパの緊張は高まった。しかし、フランスに対する国際的批判が高まると、25年にはドイツとの和解路線をとるフランス外相ブリアンBriand 1862～1932の主導でルールからの撤兵が実現した。

革命と敗戦で混乱したドイツでは、諸政治勢力が激しく衝突した。1919年初めには社会主義革命をめざすドイツ共産党が蜂起したが、社会民主党政権は軍部などの保守勢力と提携し、これを鎮圧した。同年、ヴァイマルで開かれた国民議会では、社会民主党のエーベルトEbert 1871～1925(在任1919～25)が大統領に選ばれ、社会権や两性平等の普通選挙権などを規定した、民主的な憲法(ヴァイマル憲法)が採択された。これ以降のドイツはヴァイマル共和国と呼ばれる。

右派・軍部の共和制への反発でヴァイマル共和国の政局は安定せず、賠償金支払いのために経済も回復しなかった。さらにルール占領に不服従運動で抵抗したため生産が低下し、激しいインフレーションが進んだ。しかし、1923年に首相となったシュトレゼマンStresemann 1878～1929(在任1923)は、 Rentenマルクを発行してインフレを鎮静し、さらにアメリカの協力を得て賠償金支払いの緩和とアメリカ資本の導入にも成功して、経済を立て直した。



ドイツの通貨インフレ 通貨インフレで古い紙幣はほとんど無価値になり、子どものおもちゃがわりにされたり、壁紙に使われたりした。



ドーズ案成立後の資本の国際的循環

③ドイツ共産党は、反戦を掲げる社会民主党左派が組織したスパルタクス団を中心として、戦後に結成された。しかし、指導者のローザ＝ルクセンブルク(1871～1919)とリープクネヒト(1871～1919)は、1919年初め、共産党の蜂起が鎮圧された際に右翼軍人に暗殺された。

④ヴェルサイユ条約に対する不満はドイツ国民に広く共有されていた。1925年にエーベルトが死去すると、第一次世界大戦中の陸軍参謀総長ヒンデンブルク(在任1925～34)が大統領に選出されたことも、その表れである。

⑤1924年、各国経済界の専門家の提案(ドーズ案)を受けて、連合国はドイツの賠償支払い額を当面軽減し、アメリカ資本によるドイツ経済復興を決定した。29年、総額を圧縮し、支払い期間も延長した最終支払い案(ヤング案)が決定され、32年には賠償総額が30億マルクに減額された。

国際協調と軍縮の進展

Q▶ 1920年代の前半と後半で、国際協調をめぐる動きはどのように変化したのだろうか。

不戦条約 写真は調印式の時のもので、左からブリアン、当時の駐仏アメリカ大使、ケロッグ。



・1930年のロンドン会議で、合衆国・イギリス・日本間の補助艦の保有比率が決定した。

①当初15カ国によって調印され、のちに63カ国に拡大した。この条約は、当時の国際協調の気運を象徴するものであった。

大戦後のヨーロッパでは、講和内容に変更を加えようとする動きや武力紛争も各地であいついだ。イタリアでは、ロンドン条約に反してフィウメがユーゴスラヴィア領となったことへの反発が高まり、1919年に急進派が一時的にフィウメを占領した。また、領土拡大をねらうギリシアがトルコに侵攻したが、ムスタファ＝ケマルの率いる抵抗運動はこれを撃退し、セーヴル条約にかえて連合国とローザンヌ条約を結んだ。20年

にはポーランドがソヴィエト＝ロシアを攻撃し、西ウクライナなどを獲得した(ポーランド＝ソヴィエト戦争)。なかでもルール占領を頂点とするフランスとドイツの対立は、ヨーロッパの緊張をとくに高めた。

しかし、緊張の高まりは、国際協調の模索をうながすことにもつながった。1925年、ドイツ外相となったシュトレゼマンは、フランス外相のブリアンと協力して、英・仏・独・伊・ベルギーなどによる地域安全

保障条約であるロカルノ条約を成立させた。これによりラインラントの非武装化が再確認され、ドイツの孤立化を基調とするヨーロッパの戦後秩序に転換が訪れた。また、翌年にドイツは国際連盟に加入した。さらに、28年にはブリアンとアメリカ國務長官ケロッグの主導で、国際紛争解決の手段としての戦争を禁止する不戦条約が成立した①。

イタリアのファシズム

Q▶ イタリアにおいて、ファシズム体制はどのように成立したのだろうか。

イタリアは戦勝国であったが、期待していた領土拡張がパリ講和会議で実現できなかったため、世論は大戦の結果に不満をいだいた。戦争の負担を負って権利意識を高めた民衆層と、地主・工場主・軍部・官僚などの支配層の対立も激化した。インフレーションが進むなかで、ロシア革命の影響を受けて、北イタリアでは労働者が工場占拠運動を展開し、農民も各地で土地を占拠した。大地主は一部の復員兵とともに武力でこの運動に対抗し、国内に混乱が広がった。

社会対立が激化するなかで、極端なナショナリズムや暴力による秩序

の回復を掲げるムッソリーニ^{Mussolini 1883～1945}と、彼によって1919年に結成されたファシスト党が、安定を求める支配層の支持を集めた。22年、ムッソリーニが「ローマ進軍^{しんぐん}」^{かんこう}を敢行すると、国王はこの行動を受け入れ、彼を首相に任命した。^{在任1922～43}ムッソリーニはイタリア共産党や労働組合などの反対勢力を弾圧^{だんあつ}して、26年にはファシスト党による一党独裁^{どくさい}を成立させた。



「ローマ進軍」時のファシスト党の指導者たち 制服の着用（この場合は黒シャツ）、軍隊式行進、右手をあげる敬礼などのスタイルは、ナチ党をはじめ他国のファシズム運動にも模倣された。左から4人目がムッソリーニ。

こうしてイタリアには、極端なナショナリズム、指導者崇拜^{すうしはい}、一党独裁、批判勢力の暴力的封じ込めなどを特徴とする、ファシズム体制が成立した^②。この体制は、独裁を築く一方、職場や自治体を通じて団体旅行をはじめとする余暇活動^{よ か}を組織するなどして、労働者を含む広範な国民を統合することに力を注いだ。国民のナショナリズムをかりたてる拡張主義的な対外政策もととり、1924年にフィウメ^{へいごう}を併合し、26年にはアルバニアを保護国化した。さらに29年にローマ教皇庁とラテラノ条約^{らてらなじょうやく}を結び、ヴァチカン市国としてローマ教皇領の独立を認めることで、国内統一のさまたげであったイタリア国家と教皇庁との対立も解消した。

→p.230

東欧・バルカン諸国の動揺

Q▶ 東欧・バルカン半島の新興国^{しんこうこく}はどのような困難に直面し、どのような体制を築いたのだろうか。

諸帝国^{しゅうていこく}の周縁部であった東欧・バルカン半島の新興国は、チェコスロヴァキアを除いて農業国であり、大戦後の世界的不況^{ふきやう}で経済的に大きな影響を受けた。政治的にもこれらの諸国は、少数民族問題を抱えて不安定であった。チェコスロヴァキアでは議会政治が安定したもの、1920年代末までに多くの国では権威主義体制^③が成立した。

ポーランドはソヴィエト＝ロシアとの戦争で領土を拡大したが、議会政治は早くから混乱し、1926年に独立運動の指導者ピウスツキ^{Pilsudski 1867～1935}がクーデタで実権を握った。ハンガリーでは1919年に革命によって社会主義体制が成立したものの、短期間で倒れて権威主義体制が確立した。バルカン地域では、セルビアなど南スラヴ系民族がセルブ＝クロアート＝スロヴェーン王国としてまとめ、29年に「南スラヴ人の国」を意味するユーゴスラヴィアに国名を改称した。

② イタリアのファシズム、ソ連の共産党独裁（→p.283）、ドイツのナチ党独裁（→p.302）をあわせて、全体主義と呼ぶこともある。イデオロギー（特定の世界観）の確立、言論・思想統制、指導者崇拜、一党独裁、大衆動員などがその特徴である。

③ 大地主^{おおじぬし}などの伝統的な支配層に依拠しながら、指導者が強権的な統治をおこなう体制を権威主義体制と呼ぶ。全体主義と似ているが、明確なイデオロギーがなく、大衆動員の要素も弱いなど、異なる面もある。



五カ年計画のポスター 「2+2」に「労働者の熱意」を加えれば5になると記されている。



コルホーズ ロシア革命後から組織されていたコルホーズは、五カ年計画で全国に拡大された。写真は、1930年代のウクライナのコルホーズでの収穫風景。

①パリ講和会議で領土の多くを喪失したハンガリーによる失地回復運動への警戒が、この動きの背景の1つであった。

②その後、第二次世界大戦を経て、ソ連邦を構成する共和国の数は15となった。

③コルホーズは、土地・農具・家畜を共有する農民の共同農業経営組織で、ソフホーズは農業経営のモデルとなる国営の大規模農場である。

国際的には、ポーランド・チェコスロヴァキア・ルーマニアなどが、フランスと提携することでヴェルサイユ体制の維持をはかった①。

ソ連の成立

Q 1920年代のソ連は、どのような歩みをたどったのだろうか。

ソヴィエト＝ロシアは内戦で荒廃したが、ネップのもとで市場経済が導入されると商業・流通が復活し、1920年代後半までに戦前の経済水準にまで回復をとげた。1922年末には、内戦中に成立したウクライナ・ベラルーシ・ザカフカースの3つの共和国がソヴィエト＝ロシアと結合することで、**ソヴィエト社会主義共和国連邦**(ソ連邦、ソ連)が成立した②。

1924年にレーニンが死去すると後継者争いがおこり、ソ連1国で社会

主義建設は可能であるとする一国社会主義論をとなえ

る**スターリン**が、世界革命路線を主張するトロツキーを追放して、実権を握った。これによりコミンテルン

も、世界革命の推進よりもソ連の擁護を優先するようになった。一方で、1922年の**ラパロ条約**によってドイツから国家承認を受けたことを皮切りにして、ソ連の

国際社会への復帰が進んだ。

ネップにより経済は回復したものの、市場経済のもとで失業者が増大し、加えて農民が国家に穀物売り惜しむようになると、**スターリン**はネップにかえて全面的な社会主義建設に踏みきり、1928年に**第1次五カ**

年計画を開始した。工業では、労働者層・青年層の支持を得て、工場建

設・生産拡大・重工業化が推進された。農業では、農民は集団農場(コ

ルホーズ)・国営農場(ソフホーズ)③に強制的に編入されて機械化・集団

化が進められるとともに、低価格での穀物供出を義務づけられ、抵抗す

ると逮捕・追放された。農業集団化は1930年代半ばまでにほぼ完了した

が、その過程で農業は混乱し、農村には飢餓と大量の餓死者がもたらさ

れた。

アメリカ合衆国の繁栄

Q 大戦後のアメリカ社会の特徴は、どのようなものだったのだろうか。

第一次世界大戦中、アメリカ合衆国は戦場とならず、連合国に物資・借款(戦債)を提供して大きな利益をあげ、戦後は債務国から債権国に転

フォードの工場とT型フォード車 アイ
ルランド系移民の子であったフォード
(1863~1947)は、エジソン電気会社の
技師時代に自動車エンジンの開発を始め、
1896年に成功した。フォードT型車は、
フォード社が初期に製造した大衆車。細
分化した生産工程を流れ作業でつなぐ大
量生産方式で低価格化を実現し
た。1908年の発売以来約20年間
で1500万台以上を販売し、合衆
国におけるモータリゼーション
の象徴となった。



じて、国際金融市場の中心の1つとなった。大戦後、国内で孤立主義が
強まった合衆国は国際連盟に参加せず、また国内市場を高関税政策で守
り、旧連合国が求めた戦債返済の免除も拒否したため、ヨーロッパ経済
には重い負担となった。一方、軍縮や不戦条約などの国際協調は推進し、
1920年代後半になるとドーズ案やヤング案による賠償問題の解決を進
めて、ヨーロッパの安定に寄与した。

国内では、大戦中に多くの女性が軍需生産などに協力し、1920年に女
性参政権が認められた。21年からは3代12年にわたり共和党政権が続き、
自由放任政策がとられ、20年代の合衆国経済は繁栄を謳歌した。この時
期に、大量生産・大量消費・大衆文化を特徴とする大衆社会が本格的な
展開を始めた。流れ作業と部品の規格化により、フォード車や家庭電化
製品などが大量かつ安価に生産され、消費意欲をかき立てるネオンなど
の広告による宣伝のもと、信用販売(月賦)により広範な家庭で購入され
た。また、サラリーマンや公務員などの都市中間層が社会の中心層とな
り、ラジオ・映画・スポーツ観戦などの大衆文化を支えた。

一方で、戦後の合衆国では、伝統的な白人社会の価値観も強調され、
保守的な傾向が強まった。禁酒法が制定されたほか、黒人や移民などを
攻撃するクー＝クラックス＝クランも活発化した。1924年に成立した移
民法では、東欧系や南欧系の移民の流入が制限され、日本を含むアジア
系移民の流入が事実上禁止された。



商品広告 1920年代以降、人々の
購買意欲を刺激する様々な
商品広告が現れ、雑誌や市街
を飾った。写真は1923年のコ
カ＝コーラのポスター。

アジア・アフリカ地域の民族運動

3

Q▶ 第一次世界大戦後に高まったアジア・アフリカ地域の民族運動には、どのような特徴や共通性があるのだろうか。

第一次世界大戦と東アジア

Q▶ 第一次世界大戦は、東アジアの政治・経済・文化にどのような影響を与えたのだろうか。

第一次世界大戦によりヨーロッパの工業製品の流入が減少し、軍需が
増大したことは、東アジアに空前の好景気をもたらした。日本は不況と
日露戦争以来の財政危機を脱し、生糸と綿織物の輸出増大によって繊維
産業が発展したのみならず、重化学工業も大幅に拡大し、工業生産額は
農業生産額を追い抜いた。中国でも綿紡績業や製糸業などの軽工業を中心
として中国企業が成長したほか、大戦後には日本の綿紡績業も中国へ
大規模に進出した。両国では都市労働者が増大し、学生などの青年知識
人も増加した。都市を中心としてマスメディアが発達するなか、大戦に
ともなうヨーロッパの衰退、戦後処理問題における民族自決の提起、ロ
シア革命の勃発といったできごとは知識人や労働者に大きな影響を与
え、東アジア各地では社会運動と民族運動が活性化した。

日本では、政治の民主化を求める風潮が高まり(大正デモクラシー)、
1918(大正7)年の米騒動と世論の高まりを経て、同年には政党内閣が成
立した。社会運動が勃興し、社会主義勢力のなかではマルクス主義の影
響力も強まった。普通選挙を求める運動が高まるなか、25(大正14)年に
普通選挙法が成立したが、共産主義の拡大に対応するための治安維持法
も同年に成立した。

中国では、辛亥革命後の政治的な混乱に対して、根本的な社会変革を
めざす新文化運動が始まった。陳独秀らが創刊した『新青年』は、「民主と
科学」を掲げて中国社会の革新と旧弊の打破を訴えた。胡適が同誌上で
白話(口語)文学をとらえたことから文学革命も始まり、魯迅は『狂人日
記』『阿Q正伝』などの作品で中国社会の病弊を描いた。新文化運動の中
心となっていた北京大学ではロシア革命後、李大釗らによってマルクス
主義の研究が始まり、その受容が進んでいった。



魯迅 魯迅は医学を志して日本の仙台医学専門学校(現在の東北大学医学部)に留学したが、中国を救うためには国民性の改造が必要と考え、文学に転じた。

①当初は日本の社会主義者の著作を経由して、マルクス主義の受容が始まった。

胡適「文学革命についての書簡」(1916年8月)

この一年来、いろいろと考え調べた結果、私は、今日、文学の革命を唱えようとするれば、次の八項から着手する必要があると思います。それは、
一、典故を用いない。
二、常套語を用いない。
三、対句を使わない(文章では駢文^{べんぶん}①を、詩では律詩を廃止すべきである)。
四、俗字俗語を避けない(口語で詩作することも排さない)。
五、文法構造を追求しなければならない。

以上はいずれも形式上の革命です。
六、悩みもないのに深刻ぶらない。
七、古人を模倣せず、一語一語に個性がなければならぬ。
八、言葉に中身がなければならない。
以上はいずれも精神上的の革命です。

①四六駢體のこと。

(坂元ひろ子責任編集『新編 原典中国近代思想史4』)

日英同盟を根拠に！

日本の進出と東アジアの民族運動

Q▶ 日本の勢力拡大に対して、中国・朝鮮の人々はどうのように対応したのだろうか。

Q▶ 胡適は従来の文学のどこに問題があり、どのように発展させるべきだと考えていたのだろうか。

第一次世界大戦によってヨーロッパ列強が東アジアから後退したことは、日本が同地への進出を拡大する契機となった。大戦勃発後まもなくドイツに宣戦した日本は、中国内のドイツ租借地の膠州湾(青島)や、青島と済南を結ぶ鉄道、および太平洋上のドイツ領南洋諸島を占領した。さらに1915(大正4)年1月、中国に対して山東のドイツ利権の継承など二十一条の要求を突きつけた。中国の主権をそこなうとして袁世凱政権は抵抗したが、日本は軍事的圧力をかけて要求の大半を認めさせた②。これは中国人の強い反発をまねき、日中関係を悪化させた。大戦末期に日本は列強の対ソ干渉戦争(シベリア出兵)に加わったが、他国の撤退後も軍をとどめて内外の批判を浴び、22年ようやく撤退した。

日本の強権的な支配が続く朝鮮では、ロシア革命や民族自決の潮流に呼応して独立運動が活性化し、1919年3月に「独立万歳」をとなえるデモがソウルで始まり、朝鮮全土に広まった(三・一独立運動)。朝鮮総督府は警察・憲兵・軍隊を動員して運動を徹底的に弾圧したが、この運動に衝撃を受け、武断政治をゆるめて「文化政治」と呼ばれる同化政策に転換した。運動はまた、4月に大韓民国臨時政府③が上海で結成されるきっかけとなった。

1919年のパリ講和会議で、日本は山東のドイツ権益の継承と赤道以北のドイツ領南洋諸島の委任統治権を得たが、中国は二十一条の取り消しや山東のドイツ権益の

②要求は東北地方や山東半島の権益の維持がおもな内容で、日本人顧問を中央政府に入れるという秘密条項は、中国側が公表してイギリス・アメリカの反発をまねいたため、撤回された。

③朝鮮の独立運動諸団体を統合して李承晩(→p.318)を首班に結成されたが、諸外国の承認は得られず、内部対立から弱体化した。



三・一独立運動 この運動は都市から農村にまで広がり、日本の弾圧によって多数の死傷者が出た。写真はソウル(当時は京城)での女性によるデモ。



五・四運動 1919年12月、北京の天安門広場における国民大会。

①運動の影響もあり、パリの中国代表团は、中国政府の指示に従わず、ヴェルサイユ条約に調印しなかった。

②実際には、中国は多くの利権を回収済みであり、ソヴィエト＝ロシアが放棄した特権はなかった。

③ソ連と提携し、共産党を受け入れ、労働者・農民を支援する、という意味。

④同時期に、ソ連にならって党の軍隊が編制された。

⑤会社側によるスト労働者射殺に抗議するデモ隊が、5月30日に上海の租界警察と衝突して十数人の死者を出したことから、運動が全国的に拡大した。

⑥上海において有力な浙江・江蘇出身の資本家は、浙江出身の蒋介石による労働運動の抑制に期待し、蔣と提携した。

返還を認められなかった。これに抗議して同年5月4日に北京の学生を中心とするデモがおこなわれ、これは日本商品排斥やストライキをうながし、都市部の幅広い層を巻き込む全国的な運動に拡大した(五・四運動)①。

第一次世界大戦後に成立した国際連盟では、日本は常任理事国となって国際的地位を向上させた。しかし、東アジアにおいて日本の勢力が急速に拡大したことにより、アメリカ合衆国やイギリスなどの列強との利害調整が必要となり、ワシントン会議における九カ国条約で中国の主権尊重と領土保全が約束されたほか、日中間交渉で山東のドイツ利権が中国に返還された。

南京国民政府の成立と共産党

南京国民政府による中国統一は、どのように達成されたのだろうか。

ソヴィエト＝ロシアは、1919年に外務人民委員代理カラハンの名で、

旧ロシア帝国が中国に有した利権の放棄を宣言し、中国人に歓迎された。

また、コミンテルンは中国の社会主義者の組織化をはかり、21年に

陳独秀を指導者とする中国共産党が成立した。19年に成立した中国国民

党を率いる孫文は、広州に拠点をおき、ソ連に接近してその顧問を受け

入れ、「連ソ・容共・扶助工農」の方針をとった。24年には国民党を改

組し、中国共産党員が共産党籍を残したまま国民党に入党することを認

めた(第1次国共合作)。25年に孫文は病死したが、上海の日系紡績工

場における労働争議をきっかけに広がった五・三〇運動は、反帝国主

義を掲げる国民党の追い風になり、7月には広州に国民政府が成立した。

翌26年7月、蒋介石率いる国民革命軍は、各地に割拠する軍事勢力を打

倒して中国統一をめざす北伐を開始し、共産党の指導する農民運動や労働

運動の支援もあり、27年3月に上海・南京を占領した。しかし、国民

党内では左派・共産党とこれに反対する右派との対立が激しくなってい

たうえ、運動の過激化への資本家・商工業者らの反発は強まり、列強

の懸念も高まった。そこで右派の蒋介石は、同年4月に上海クーデタを

おこして共産党を弾圧し、新たに南京に国民政府を建てて主席となった。

1928年に北伐は再開され、国民革命軍は北京にせまったが、その際に

日本人居留民保護を口実に山東出兵をおこなっていた日本軍と済南で衝

突した。この事件は国民政府と日本の関係の悪化をまねいた。一方、東北地方を拠点とする奉天派の張作霖^{ちやうさくりん 1875～1928}は日本の支援を受けていたが、しだいに自立政策をとって日本軍^{かんとうぐん}と対立した。関東軍の一部は、張作霖が北伐軍に敗れて北京から撤退する途中に列車を爆破して殺害し、東北地方の支配をはかった。しかし、この謀略は失敗し、張作霖の息子の張学良^{ちやうがくりやう 1901～2001}は日本に対抗して国民政府の東北支配を認めたため、国民政府の全国統一はひとまず達成された^⑦。

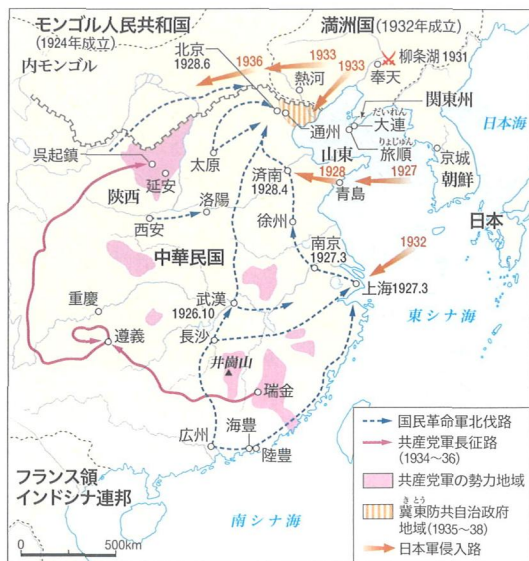
1927年の国共合作崩壊後、中国共産党は都市などで蜂起を試みたが失敗し、華中・華南の山岳地帯の農村に逃れて根拠地を建設した。毛沢東^{もうたくとう 1893～1976}の率いる紅軍が築いた根拠地はしだいに拡大し、31年には江西省瑞金を首都とする中華ソヴィエト共和国臨時政府が成立した。これに対して国民政府は繰り返し包圍攻撃をおこなったが、制圧することはできなかった。

インドにおける民族運動の展開

Q▶ 第一次世界大戦後、インドの民族運動はどのように展開したのだろうか。

第一次世界大戦中、イギリスは国際世論^{よろん}におかれて、インドに自治を約束した。しかし、大戦後の1919年インド統治法^{とうちほう}は、州行政の一部をインド人にゆだねただけであった。また同年、強圧的なローラット法^{Rowlatt Act 1919}が制定され、パンジャブ地方のアムリットサルでは、イギリス軍が民衆の抗議集会^{はっほう}に発砲して多数の死傷者を出す事件も発生した。これらはインド民衆の激しい反発を呼んだ。

植民地政府の圧制^{あつせい}に対し、非暴力を掲げて民衆の指導者となったのがガンディー^{Gandhi 1869～1948}であった^⑧。彼は、1920年の国民会議派大会で非協力運動を提示し、民族運動をエリートだけでなく民衆も加わる運動へと脱皮させた^⑨。しかし、運動はガンディーの理想通りには進まず、農民による警官殺害事件が発生したために中止された(1922年)。これにより運動方針の対立が生じ、宗派対立も深刻化したため、民族運動は混乱し、ムスリムは反国民会議派・親イギリス路線を歩むことになった。



1920～30年代の中国

⑦ 国民党内部の対立は依然として激しく、地方に割拠する勢力も残存したため、この時点では中国の実質的な統合には至らなかった。

⑧ ガンディーは、南アフリカでのインド人移民への差別撤廃運動に勝利をおさめて1915年に帰国し、熱狂的な歓迎を受けた。

⑨ インドのムスリムは、大戦後にオスマン帝国のカリフの擁護を訴えるかたちで反英運動を展開し、これに国民会議派も同調することによって、宗教の別をこえた民族運動となった。



憲政改革調査委員会へのデモ
サイモンを委員長として全員
がイギリス人で構成される委
員会に反対して、各地で激し
いデモが発生し、多くの民族
活動家が負傷した。



「塩の行進」 ガンディー(前列左から2人目)は、生活必需品
である塩への課税を植民地支配の象徴ととらえ、法をおかし
て塩づくりをおこなうことで植民地支配に抵抗した。

1927年、新たなインド統治法を制定するための憲政改革調査委員会
(サイモン委員会)にインド人が含まれていなかったことから、民族運動
は再び激化し、29年には国民会議派内のネルーら急進派が完全独立(プ
ールナ=スワラージ)を決議した。運動に呼び戻されたガンディーは、30
年に「塩の行進」を組織した。これに対し、イギリスはインドの様々な勢
力をロンドンに招集し、円卓会議を開いてインドの将来の地位を論議さ
せようとした。しかし合意は成立せず、円卓会議で中止されていた非協
力運動は32年に再開された。

こうしたなかで成立した1935年インド統治法では、州政治はインド人
に委譲されることになったが、中央の財政・防衛・外交はイギリスが掌
握し続け、完全独立とはほど遠いものであった。1937年に同法のもとで
州選挙がおこなわれ、多くの州で国民会議派が政権を獲得した。またム
スリムが多数を占める州では、ムスリムを首班とする地域政党が勝利を
おさめた。こうしたなか、ジンナーを指導者とする全インド=ムスリム
連盟は、40年、新たにイスラーム国家パキスタンの建設を目標に掲げた。

第二次世界大戦が始まると、イギリスは再びインドに協力を求めたが、
国民会議派は完全独立を要求し、非協力運動を続けた。政府はこれを弾
圧し、国民会議派を非合法化して、ガンディーらの指導者を投獄した。

東南アジアにおける 民族運動の展開

Q▶ 第一次世界大戦後、東南アジア各地の民族運動は
どのように展開したのだろうか。

オランダ支配下のインドネシアでは、1920年に結成されたインドネシ
ア共産党が独立をとらえた。同党が弾圧によってほぼ壊滅したのちは、
オランダから帰国した留学生たちが、運動の指導権を握った。27年には
スカルノを党首とするインドネシア国民党が結成され、翌年にインドネ



スカルノ 共産党蜂起失敗後
の民族運動の旗手として登場
したスカルノは、植民地支配
からの即時独立を訴え、投獄
された。日本軍は彼を利用し
ようと、日本にまねいている。
インドネシアは、独立宣言後
もオランダとの長い戦争を続
けた。写真は戦争終結を宣言
した1950年9月のもの。

シアという統一された祖国・民族・言語をめざす宣言がなされた。

フランス支配下にあったインドシナでは、1925年に

ホー＝チ＝ミン Ho Chi Minh 1890～1969 がベトナム青年革命同志会を結成し、

それを母体に、30年にベトナム共産党(同年10月にインドシナ共産党に改称)が成立した。党は、徹底的な弾圧を受けながらも、農村を拠点に武装闘争を展開した。



また、イギリスが支配するビルマでは、1920年代から民族運動が始まり、僧侶による啓蒙運動や**タキン**党と呼ばれる急進的民族主義勢力の台頭がみられた。

アメリカ合衆国が統治するフィリピンでは、1907年に議会が開設され、立法や行政においてはフィリピン人への権限委譲が進められた。しかし、経済面では合衆国への輸出に大きく依存した商品作物生産が進んだため、窮乏化した農民たちは反乱を繰り返した。その結果、34年にフィリピン独立法が成立し、翌年独立準備政府が発足した。タイでは、王による専制的統治が続いていたが、財政的混乱や王族支配への批判が高まり、32年の立憲革命によって王制から立憲君主制となった。

こうした状況のもとで、東南アジアは、1941年末から太平洋戦争に巻き込まれ、多くが日本軍の侵攻に直面することになった。

西アジアの民族運動

Q ▶ 第一次世界大戦は、西アジアの政治地図をどのように塗りかえたのだろうか。

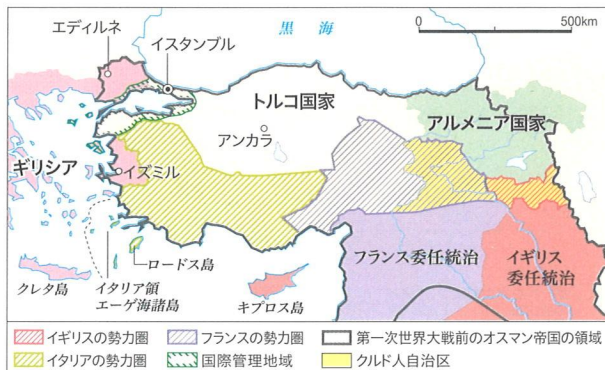
オスマン帝国は、第一次世界大戦で同盟国側に立って参戦して敗れた結果、列強による国土分割の危機に直面した。これに対して、軍人の

ムスタファ＝ケマル Mustafa Kemal Atatürk 1881～1938 (のちのアタテュルク) がトルコ人の主権と国土を守るために抵抗運動を指導し、1920年、アンカラにトルコ大国民議会を組織した。

侵攻してきたギリシア軍を1922年に撃退した**ムスタファ＝ケマル**は、スルタン制を廃止してオスマン帝国との決別を明らかにする一方、23年に連合国と**ローザンヌ条約**

ホー＝チ＝ミン 料理人として渡米後、フランスへ渡り、共産主義に傾倒した。そこからソ連や中国に行き、1930年2月に香港でベトナム共産党を設立。41年に帰国後、ベトナム独立同盟会(ベトミン)を組織した(→p.320)。第二次世界大戦終了直後に独立を宣言したが、その後フランスやアメリカの介入に対して長く武力闘争を続けた。

オスマン帝国の分割 大戦中に**サイクス・ピコ協定**でオスマン帝国の分割を画策していた列強は、1920年の**セーヴル条約**で地図のような分割をオスマン帝国政府に認めさせ、これにもとづいてエーゲ海沿岸にはギリシア軍が侵攻した。

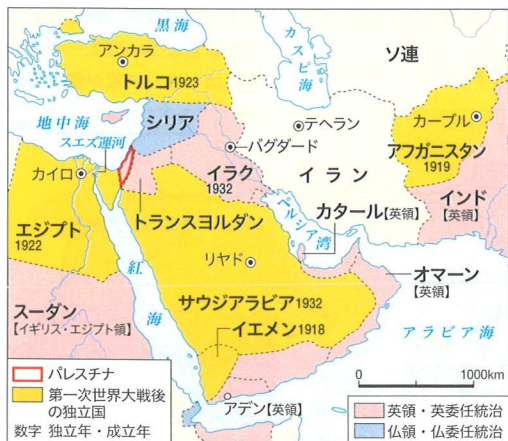




ムスタファ＝ケマル 写真は、文字改革を推進し、ローマ字を教えている様子。また、彼はのちに議会から「アタテュルク(父なるトルコ人)」の姓を与えられた。

①アラビア文字にかえてローマ字を採用し、トルコ語の母音をすべて表記できるようにした。

②イラクは、1932年に王国として独立した。シリアでは、41年にレバノンが分離されて43年に共和国として独立した。また第二次世界大戦後には、46年にシリアが共和国として、同年にトランスヨルダンも王国として独立した。



第一次世界大戦後の西アジア

を結んで新たに国境を定め、治外法権の廃止と関税自主権の回復を実現して、トルコ共和国を樹立した(トルコ革命)。ケマルは大統領となり、国家主導の産業育成、カリフ制の廃止と政教分離、文字改革①、太陽暦の採用、女性参政権の実施などの近代化政策を強力に推進するとともに、歴史と言語を軸とするトルコ民族主義の育成と強化をめざした。

イランは大戦に際して中立を宣言したが、大戦中は事実上イギリスとロシアの占領下におかれた。戦後の混乱期に軍人のレザー＝ハーンが実権を握り、1925年にガージャール朝を廃してパフラヴィー朝を開き、みずからシャー(国王)を称した。彼はトルコと同じく近代化政策を推進し、国名を他称のペルシアからイランに改めるなど、イラン民族主義を鼓舞したが、国内の石油利権はなおイギリスが保有した。アフガニスタンは、イギリスと戦って完全な独立を果たし(第3次アフガン戦争)、立憲君主制のもとで近代化に着手した。しかし、近代化に反対する国内の勢力との緊張が続いた。

アラブ地域では、アラビア半島においてかつての王国の再興をめざすイブン＝サウードが、イギリスと同盟を結びながら、ワッハーブ派の勢力を率いて頭角を現した。彼は、大戦中からアラブ独立運動を指導してきたヒジャーズ王国のフセイン(フサイン)を破り、半島の大部分を統一して1932年にサウジアラビア王国を建てた。まもなく国内で莫大な石油資源が発見されると、同国の戦略的な重要性は著しく高まった。

大戦の開始とともにイギリスの保護国となっていたエジプトでは、戦

後に全国的な反英独立運動がおり(1919年革命)、1922年にイギリスは条件付きの独立を認めて、立憲君主制のエジプト王国が成立した。しかし、イギリスはスエズ運河の支配権など多くの特権を維持したので、エジプト人による抗議が続いた。

また、イラクはイギリスの、シリアはフランスの委任統治下におかれたのち、それぞれ独立を達成していった②。しかし、それらの国境線は列強の思惑によって定められたものであり、アラブ地域はいく

つもの国境線で分断されることになった。

ワフド党を中心に独立運動が活発化した。

フセイン・マクマホン協定(1915年)とバルフォア宣言(1917年)

フセイン・マクマホン協定(英外交官マクマホンからフセイン宛書簡)

(1) イギリスは一定の修正①を加えて、メッカのシャリーフ[フセイン]によって要求されている範囲内すべての地域におけるアラブ人の独立を認め、それを支援する用意がある。

(2) イギリスは外国からのすべての侵略に対して聖地②を保全し、その不可侵性を承認する。(歴史学研究会編『世界史史料10』)

① 地中海岸の一部の地域はアラブ独立国家から除外されるという修正。② イェルサレムのこと。

バルフォア宣言(英外相バルフォアからロスチャイルド卿宛書簡)

国王陛下の政府はパレスチナにおいてユダヤ人のための民族的郷土(National Home)を設立することを好ましいと考えており、この目的の達成を円滑にするために最善の努力をおこなうつもりです。また、パレスチナに現存する非ユダヤ人諸コミュニティの市民および信仰者としての諸権利、ならびにほかのあらゆる国でユダヤ人が享受している諸権利および政治的地位が侵害されることは決してなされることはない」と明確に理解されています。(歴史学研究会編『世界史史料10』)

Q> イギリスは、こうした約束によって両者からどのような協力を求めたのだろうか。また、それによってどのような事態が生じたのだろうか。



フセイン・マクマホン協定とバルフォア宣言

もっとも大きな矛盾が生じたのはパレスチナである。イギリスは大戦中、1915年のフセイン・マクマホン協定によってアラブ人にオスマン帝国からの独立を約束する一方、17年のバルフォア宣言ではパレスチナへの復帰をめざすユダヤ人のシオニズム運動を支援する姿勢を示し、双方から協力を得ようとした。こうしたあい反する約束に加えて、大戦後にパレスチナはイギリスの委任統治領となったため、アラブ・ユダヤの両民族はそれぞれの権利を主張して対立し、現在まで続く深刻なパレスチナ問題が生まれることになった。

アフリカの民族運動

Q> アフリカの民族運動は、どのように展開したのだろうか。

20世紀初めまでに大半の地域が植民地化されたアフリカでは、19世紀から各地で抵抗運動がおきていた。20世紀に入ると、南アフリカで1912年にアフリカ民族会議(ANC)が創設され、人種差別撤廃をめざす運動が始まった。第一次世界大戦が終わると、世界の民族運動の波がアフリカ各地にも広がり、自治や独立をめざす組織が設立された。

アフリカでの民族運動とは別に、19世紀末から、おもにアメリカ合衆国とカリブ海地域のアフリカ系知識人を中心として、欧米を舞台としたパン＝アフリカニズムと呼ばれる解放運動が生まれていた。1900年にロンドンで開かれたパン＝アフリカ会議では、西欧植民地主義への抗議と人種差別への反対がとなえられた。第一次世界大戦後の19年の会議では、アフリカの植民地における漸進的・段階的自治の推進などが決議された。

この両者の運動は、第二次世界大戦後に合体し、ガーナのエンクルマ(ンクルマ)らを指導者として、アフリカの解放と統一をめざす運動へと発展した。